

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

現在の定時制の課程は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高等学校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機を持つ生徒の学び直し場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 本校に入学する生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、生徒が望む学習と幅広い進路選択ができるよう多様な選択科目を設け、必要な教科で少人数授業を実施するなど教育課程編成の工夫に努める。また、適切な授業規律の中で授業内容や指導方法、学習教材を工夫することにより、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、学力の一層の伸長をめざす。さらに、社会の変化や生徒・保護者等の意見やニーズを踏まえて、生徒が社会で必要とされる学力を身につけられるよう、本校の教育システムの更なる改善・充実に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的意見（平成 27 年度 64.1%）を毎年 5%引き上げ、平成 30 年度には 79.1%にする。

※相互授業見学報告研修会、「生徒の視点から授業を見つめ直す」研修、アクティブラーニング研修等、授業力向上に係る校内研修を年間 5 回実施し、それを維持する。

## 2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) 学年制の良さを活かした学校生活、ホームルーム活動をはじめ学校行事や部活動などの活性化を図ることにより、個々の生徒の自主性を高め、生徒相互の連帯感や協調性を育て、自分自身を、そして、お互いを尊重しあう精神を養う。あわせて、本校で共に学ぶ中で、違いを認め合い共に生きることの大切さを理解させて、人権感覚を養うとともに、種々の人権学習や体験学習を通じて、グローバル社会において自他の人権を守ることでできる人間の育成に努める。

修学の志を持続させるため、全教職員が個々の生徒の課題や背景を踏まえた上で生徒のサインを的確に捉え、きめ細かく、かつ迅速で適切な対応に努める。さらに、家庭との連絡を密にして生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、外部機関との連携を図ることも含めて環境整備に努めつつ、勤労と勉学が両立できる安定した生活を確立する指導を行い、社会で必要とされる力の育成をめざし、生徒が自己実現を行うための支援に努める。

※進学者を除く卒業生の学校斡旋就職率（平成 27 年度 36.7%）を毎年前年度比 5%引き上げ、平成 30 年度には 42.4%にする。

(2) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用して中途退学率の低減をめざす。家庭環境などのために学業継続が困難となる生徒に対し、学校と S S W が連携して積極的にアプローチし、課題を見極め、福祉や労働などの関係機関とつなげることで課題解決の支援をし、学校への定着を図る。

※平成 31 年度までに、文部科学省が公表する平成 26 年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の 11.4%以下を目標とする（平成 21 年度から平成 25 年度までの平均 15.2%、平成 26 年度 20.8%、平成 27 年度 18.6%）。

## 3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

(1) 教職員全員が課題を共有し、教職員一人ひとりの能力を最大限に発揮して、自主的・自律的に教育活動を推進するため、機動性と透明性の高い組織体制の改善・充実に努め、組織的・機能的な運営に努める。あわせて、定時制の教育システム等について、授業公開や校外研修に加え、校内研修の実施や O J T により研鑽を重ね、教職員の資質向上に努める。

※教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定的意見 90%以上（平成 27 年度 91%）を維持する。

(2) 学校 W e b ページ等を活用し、保護者、雇用主や地域、中学校等に学校の教育目標や教育活動の実施状況などについて、幅広く積極的な情報提供や働きかけを行い、地域とつながる学校づくりを推進する。また、家庭、地域、中学校、関係機関等との相互理解・相互協力による良好で有効な連携体制の構築を図る。

※保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率（平成 27 年度 68.4%）を毎年前年度比 5%引き上げ、平成 30 年度には 79.2%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「わかる」「できる」「楽しい」が実感できる授業を目標に取り組んだ。教職員の評価では、「指導方法の工夫・改善」「創意工夫を生かした総合的な学習の時間の実施」等で全員が肯定的な評価をしている。生徒の評価は、「授業はわかりやすい」「質問しやすい」「I C T 機器の活用」の項目について、いずれも昨年度より高いポイントになっているが、引き続き改善に取り組みたい。</p> <p>【生徒指導等】 教職員向けのアンケートでは、生徒の問題行動が発生した場合の組織的対応、問題行動の未然防止への取組みの評価が全項目中で下位 2 項目となっており、今後に向けて大きな課題となっている。</p>	<p>第 1 回（6/30） ○H28 年度学校経営計画と学校の現状について ・准校長が不在のため、全日制校長から学校経営計画について、教頭から学校の現状についての説明を行った。 ○次年度教科書の選定について ・どのような観点で教科書を選定しているか、また、生徒の教科書費用負担の仕組みについての質問があった。</p> <p>第 2 回（11/29） ○デリバリー給食について ・夜なので食堂が明るくなるような雰囲気があればいい。 ・先生も生徒と一緒に食べていてよかったが、一人で食べている生徒がいて気になった。</p>

<p>生徒向けアンケートで最も肯定的な評価が高かった項目は、「奨学金制度についての情報を知らせてくれる」「先生は、お互いに協力し合っている」であり、逆に最も低かった項目は「気軽に相談できる先生がいる」「生徒会活動が活発」であった。教育相談の充実や生徒会活動の活性化に向けて、学校が外部機関とも連携し、チームとして機能するような体制を構築していくこと必要である。引き続き学校行事の精選と充実に努めていきたい。</p> <p>生徒向けアンケートで昨年度と比較し、最も肯定的な評価が増えた(2.92→3.21)のは「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」という項目で、評価が向上した要因としては、今年度の文化祭への出席率が昨年より高かった(54%→70%)ことが考えられる。</p> <p>【課題】保護者向け教育自己診断の回収率が昨年度を大きく下回っており、実施時期や趣旨説明、及び回収方法について次年度は改善する必要がある。</p>	<p>○学校行事等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に実施したリーダーズキャンプの写真を活用して、来年度も生徒が多く参加するような動機付けにはどうか。</li> </ul> <p>○三学期制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二学期制に比べて、長期休業前に学期の評価を確定できることのメリットが大きい。</li> </ul> <p>第3回(2/28)</p> <p>○平成29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWが配置されている学校とそうでない学校の中退率に関するデータを取り成果検証をしてほしい。</li> <li>・SC、SSWとも回数だけでなく、活用することによって学校がどのように変容したのかということも大切ではないか。</li> <li>・生徒指導については、学校としての組織体制を強化するために、具体的なイメージを持って取り組む必要がある。</li> </ul> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の回収率が悪いことについては、郵送などの方法で回収率を高めるとともに、回収率が低いことをしっかり分析する必要がある。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が生徒の話をしっかりと聞き、生徒との信頼関係を築いてほしい。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	(1) ア 教育課程のさらなる充実  イ 授業力の向上	(1) ア・論理的思考や探究活動に興味・関心を持つ力、自ら調べ考える力、知識・情報をもとに解決方法を見出す力を持つ生徒を育成するための教育内容の研究・実践  ・効果的な学習活動を実施し、進級・卒業につなげるための一助として、三学期制に変更する。  イ・授業力の向上、「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業の実践・研究  ・相互授業見学・公開研究授業等の実施	(1) ア・生徒による研究・発表活動が実施できたか。  ・生徒向け学校教育自己診断ICTの活用に係る項目の肯定率前年度比5%アップ(80.6%→84.6%) ・充実した帰国渡日生徒への支援が実施できたか。  ・三学期制への変更(H29～)を実現したか。 イ・授業満足度の向上(授業アンケート3.6P→3.7P) ・生徒向け学校教育自己診断の授業関連項目の肯定率5%アップ。「授業はわかりやすく楽しい」64.1%→69.1%、「先生に質問しやすい」72.3%→77.3% ・習熟度別少人数展開による授業を実施できたか。 ・相互授業見学報告研修会、「生徒の視点から授業を見つめ直す」研修、アクティブ・ラーニング研修等、授業力向上に係る校内研修を年間5回実施する。 ・公開研究授業及び研究協議の実施。	(1) ア・教科では数学、情報の授業で生徒によるプレゼン授業を実施した。部活動では科学部が大阪府学生科学賞(大阪府教育委員会賞)やサイエンス・フェスタ大阪大会(優秀賞)等で研究発表活動を行なった。(○) ・生徒向け学校教育自己診断ICTの活用に係る項目の肯定率は80.5%で目標に達しなかった。(△) ・帰国渡日生徒への支援については、学校教育自己診断の肯定的な評価が教員94.1%に対して保護者は50%となっており大きな差がある。(△)、 ・三学期制への変更は実現しなかった。(△) イ・授業満足度に係る第2回授業アンケート(12月実施)昨年度の3.58Pから3.56Pに減少した。(△) ・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」は肯定率77.6%となり目標を上回ったが、「先生に質問しやすい」は72.1%となり、昨年度を下回った。(○) ・1,2年の数学と英語において習熟度別少人数授業を実施した。(○) ・予定していた研修はアクティブ・ラーニング研修を除き実施できなかった。(△) ・初任者による公開研究授業、及び研究協議を2回実施し、他校・全日制からの参加もあった。(○)
	ウ 生徒の自己実現に資する各種資格取得の支援	ウ・ワープロ検定、簿記検定、表計算検定等各種資格・検定への啓発と資格取得支援を推進	ウ・検定合格率前年度比5%アップ(66.1%→69.4%)	ウ・各種検定の合格率は52.4%となり昨年度の合格率を下回った。(△)

## 府立春日丘高等学校

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の自主性・協調性・社会性の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会、クラス代表等による校内外課題の研修会・交流会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の充実・ボランティア活動の実施</li> <li>・生徒作品や研究成果の公開発表の拡充</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会リーダー研修実施を2回以上実施できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校との生徒会交流会等が開催できたか。</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の自尊感情、達成感等に係る項目の肯定率前年度比5%アップ(73.1%→76.8%)</li> <li>・部活動参加生徒率前年度比5%アップ(43.9%→46.1%)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の行事に係る肯定率前年度比5%アップ(体育祭73.7%→77.4%、文化祭68%→71.4%)</li> <li>・校内外での生徒作品・研究の公開が実施できたか。</li> <li>・生徒会のボランティア活動が実施できたか。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒会リーダー研修を夏休みに1泊2日で実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府立定時制高校の生徒会との全体交流会を2回、北摂地域の全日制も含めた生徒会交流会を5回実施した。(○)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の自尊感情、達成感等に係る項目の肯定率は76.4%となり目標を少し下回った。(△)</li> <li>・部活動参加生徒率は57.0%で目標を大きく上回った。(◎)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の行事に係る肯定率は体育祭81.6%、文化祭82.5%で目標を大きく上回った。(◎)</li> <li>・校内では文化祭、校外では定通生徒秋季発表大会を中心に生徒作品の公開を行った。(○)</li> <li>・生徒会執行部が中心となり、ペットボトルのキャップを集めたほか、近隣の中学校の校区イベントにボランティアで参加した。(○)</li> </ul>
	<p>イ 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ウ 生徒状況の把握・情報共有、家庭連携</p> <p>エ 生徒の自己実現の支援</p>	<p>イ・校内校外巡回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時、下校時指導</li> <li>・禁煙教育、禁煙支援の充実</li> <li>・食育の推進、健康・体力づくりの支援</li> </ul> <p>ウ・4月を懇談強化月間とし、生徒や保護者との懇談を通して家庭との連携協力関係を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出身中学校等との連携強化</li> <li>・保護者や中学校教員等の公開授業参観・部活動見学を開催</li> </ul> <p>エ・計画的・系統的なキャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労・社会参加意識の醸成</li> <li>・就労が必要な生徒への職業紹介</li> </ul>	<p>イ・授業日の校内校外巡回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全登校日に実施</li> <li>・喫煙生徒率前年度比5%ダウン(19.8%→18.8%)</li> <li>・給食喫食者率前年度比5%アップ(13.2%→13.9%)</li> <li>・健康診断等受検率前年度比5%アップ(81.8%→85.9%)</li> </ul> <p>ウ・全生徒との懇談を実施できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回開催の中高連絡会での参加者数を前年度比5%増にする(88名→92名以上)</li> <li>・保護者・中学校教員等の年間の延べ参加者100名超→110名以上</li> </ul> <p>エ・特別活動「総合的な学習の時間」等において系統的なキャリア教育を計画し実施できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生の就労状況の向上。1年次の就労率前年度比5%アップ(61.8%→64.9%)</li> <li>・外部機関等と連携して就労支援を実施し、就労につなげることができたか。</li> <li>・進学者を除く卒業生の学校斡旋就職率前年度比5%アップ(36.7%→38.5%)</li> </ul>	<p>イ・校内外の巡回指導を全登校日に実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙生徒率は20.4%、昨年より少し増加した。(△)</li> <li>・給食喫食者率は15.3%で目標を上回っている。(○)</li> <li>・健康診断受診率は、身体計測88.9%、心臓・結核検診88.5%、検尿84.5%、内科検診90.7%、歯科検診88.3%、平均は88.2%となり目標を上回った。(◎)</li> </ul> <p>ウ・全生徒との面談を実施することができた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と10月に中高連絡会を開催し、参加者は77名で目標を下回った。(△)</li> <li>・保護者・中学校教員等の参加者は延べ107名で、少し目標を下まわった。(△)</li> </ul> <p>エ・特別活動や「総合的な学習の時間」においてNPO団体と連携する等、積極的に外部講師を招いたほか、職業体験バスツアー等を実施するなど計画的にキャリア教育を実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の就労率は10月現在61.0%となり、昨年とほぼ同じ比率になっている。(△)</li> <li>・ハローワークや民間企業と連携した就労支援を実施したほか、校長マネジメント経費を活用し、就職支援員を招聘することで、就職支援を行った。(○)</li> <li>・進学者を除く卒業の学校斡旋就職率は26%で目標を下回っている。(△)</li> </ul>
<p>(2)</p> <p>ア 中途退学率の低減</p>	<p>(2)</p> <p>ア・中退防止コーディネーターを中心とした校内支援体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習の実施</li> <li>・進級率・卒業率の向上</li> <li>・中退率の低減</li> <li>・支援教育委員会、スクールカウンセラー、SSW等を活用した相談機会・体制のさらなる組織的充実</li> </ul>	<p>(2)</p> <p>ア・中退防止コーディネーターを中心とした校内支援体制が確立できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に成功体験を積みせるような体験的な学習を実施できたか。</li> <li>・1年次生の2年次への進級率前年度比5%アップ(H27年度入学生40.6%→H28年度入学生42.6%)</li> <li>・在学4年以内の卒業率前年度比5%アップ(H23年度入学生29.3%→H24年度入学生30.8%)</li> <li>・中退率の前年度比5%低減(18.6%→17.7%)</li> <li>・SSWによる研修・ケース会議を年12回以上開催できたか。</li> </ul>	<p>(2)</p> <p>ア・中退防止コーディネーターや今年度配置されたSSWも積極的に要配慮生徒に係ることによって校内支援体制が強化され、生徒支援に向けて様々な連携が可能となった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次で1泊2日の体験学習を実施する等、各年次で計画的な体験学習を行った。(○)</li> <li>・H28年度入学生の2年次への進級率は76%となり、目標を大きく上回った。(◎)</li> <li>・H24年度入学生の卒業率は37.2%となり、在学4年以内の卒業率について目標を上回った。(◎)</li> <li>・中退率は13.9%となり目標を上回った。(◎)</li> <li>・SSWによる研修を1回、ケース会議を40回、開催した。(◎)</li> </ul>	

## 府立春日丘高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>(1) ア 組織力向上支援のための教職員研修や支援体制の充実 (学び合い支え合う雰囲気づくり)</p> <p>イ 学校運営組織の活性化・効率化</p>	<p>(1) ア・校内初任者等(含常勤講師等)研修の充実 ・地区初任研、定通初任研等参加奨励 ・産業医等による支援相談体制の充実</p> <p>イ・P D C Aサイクルを活用した校務運営活性化 ・問題事象への組織的な対応体制充実</p> <p>・担任、支援教育コーディネーター、S C、S S W等による生徒支援組織の充実 ・全日制との連携・協力体制の充実</p> <p>(2) ア・We bページによる情報発信の充実 ・学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>・中高連絡会・学校公開の充実</p> <p>・立命館大学等との新たな連携</p> <p>・地域との交流の充実</p>	<p>(1) ア・計画的に実施できたか。 ・法定研修以外の研修に参加できたか。 ・個別面談、相談機会・体制が充実していたか。</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定的意見90%以上を維持できたか。(平成27年度91%) ・校内体制・外部連携が充実していたか。</p> <p>・必要な生徒へのカウンセリング、ケース会議が充実していたか。</p> <p>・全定合同連絡会及び協議が充実していたか。</p> <p>(2) ア・We bページの週1回の更新ができたか。 ・学校説明会を年3回実施できたか。 ・参加中学校の拡大できたか。(前年度延べ61校) ・高大連携事業の検討・実施ができたか。</p> <p>・地域イベントに参加したか。</p> <p>・公開講座が充実していたか。</p>	<p>(1) ア・1月に初任者の公開研究授業を実施し、研究協議を行った。また、常勤講師についても7月に研修を実施した。(○) ・法定研修以外の研修については周知を行うだけでなく、研修内容により積極的に参加を呼び掛けることができた。(○) ・今年度から導入された「府立学校におけるストレスチェック制度」の実施、活用方法について産業医との協議を月1回程度行った。(○)</p> <p>イ・P D C Aサイクルを活用した校務運営活性化に係る教職員向け学校教育自己診断の関連項目では肯定的な意見は94.7%だった。(○) ・問題事象への組織的な対応体制充実に係る教職員向け学校教育自己診断の関連項目では肯定的な意見は68.4%で、他の項目に比べてかなり低い結果となった。(△)</p> <p>・S S Wによる研修を1回、ケース会議を40回、S C活用を年間11回、就職支援コーディネーターによる指導を25回実施した。(◎)</p> <p>・定例の全定連絡会に加え、随時必要に応じて協議を実施することができた。(○)</p> <p>(2) ア・We bページの更新は週1回程度更新しており、ほぼ予定通りとなった。(○) ・学校説明会を11月、12月、1月に実施し、2月には個別に進学相談会を開催した。(○) ・中高連絡会・学校公開の参加中学校数は57校で目標に達しなかった。(△) ・土曜開講授業「地球惑星科学概論において特別講師として鳴門教育大学等から講師の招聘を行った。(○) ・茨木西中学校校区の集い(模擬店)、茨木市相馬芳枝科学賞(ブース参加)、茨木市ホットドッグバンドフェスティバル(出演)等に参加した。(○) ・土曜開講授業「地球惑星科学概論」「探究」を実施し、学校説明会で見学コースとして紹介したほか、他校からの見学もあった。</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率は60%で前年度より減少した。(△)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断のアンケート回収率は2.6%と前年度より大幅に減少した。(△)</p> <p>・後援会による部活動への支援は、131,372円で、目標を少し下回っている。(△)</p> <p>・第2回学校協議会において、デリバリー給食を実際に喫食生徒ともに食べていただいた。また、4年次の「情報と科学」の授業を参観していただき、協議会委員の方々に生徒評価に参加していただいた。(○)</p>
	<p>(2) ア 開かれた学校づくりの推進 (中高大連携、地域連携)</p> <p>イ 定時制の学校環境改善の推進</p>	<p>(2) ア・We bページによる情報発信の充実 ・学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>・中高連絡会・学校公開の充実</p> <p>・立命館大学等との新たな連携</p> <p>・地域との交流の充実</p> <p>イ・学校教育自己診断の保護者肯定率の向上</p> <p>・後援会活動の整備・充実</p> <p>・学校協議会の内容の工夫</p>	<p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率前年度比5%アップ(61.5%→64.6%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断のアンケート回収率前年度比5%アップ(13.6%→14.3%)</p> <p>・後援会による部活動への支援前年度比5%アップ(130,000円→136,500円)</p> <p>・第3者評価者に文化祭等の学校行事を参観していただけたか。</p>	<p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率は60%で前年度より減少した。(△)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断のアンケート回収率は2.6%と前年度より大幅に減少した。(△)</p> <p>・後援会による部活動への支援は、131,372円で、目標を少し下回っている。(△)</p> <p>・第2回学校協議会において、デリバリー給食を実際に喫食生徒ともに食べていただいた。また、4年次の「情報と科学」の授業を参観していただき、協議会委員の方々に生徒評価に参加していただいた。(○)</p>